

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200403		
法人名	地域福研究所(有)		
事業所名	グループホームえだくに		
所在地	福岡県飯塚市枝国439番地		
自己評価作成日	平成27年5月2日	評価結果確定日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地域密着型の意味を理解し、地域に溶け込んだ施設運営を行っている。例えば、健康相談会や敬老会・地域活動であるリサイクル活動、盆踊りに伴う活動や参加などである。又、日課の散歩コースも地域の住宅地で、地域の方への声掛けも日常的に行われている。利用者の皆様に活気ある生活を送って頂くため、外食や外出などの楽しみを持っていただける年間行事を作成している。行事の中には家族の方が一緒に参加して頂ける内容のものもあり、家族との触れ合いも大切にしている。食事面では管理栄養士を配置し、利用者の食への希望を聞いたり、昔懐かしい食事も提供できるようにしている。医療面では看護師を配置し、利用者の異常にいち早く気づき、対応が出来るような体制を整えている。また、介護職員による喀痰吸引の研修修了者を配置し看護師の補佐を行っている。施設では看取りの対応もっており、最後までお世話ができる環境づくりが整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームえだくに」は地域に密着した不動産会社が母体法人であり、代表が地域福祉への貢献を目指して平成16年に開設された。介護部門として市内にグループホームを2か所運営しており、開設時から地道な地域交流に取り組み、かかわりを深めてきた。自治会交流にも積極的で、今では行事の誘いを受けることも増え、最近では地域の役を受けるまでもなった。挨拶などを続けることで近隣とも顔見知りになり、入居につながることもあったという。研修にも積極的で、事業所全体のスキルアップに取り組み、全体研修、新人研修を一緒にされている。当初から看取りにも力を入れてきており喀痰吸引研修も2名が受けた。医療連携にも取り組み、病院や地域からの紹介も多く信頼を得ており、管理栄養士による食事で栄養、BKI管理、健康状態の維持にもつなげ家族にも喜ばれている。今後も地域を支える福祉施設として活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務年数が長い職員はもとより、新人の職員研修の中にも理念についての研修があり、その内容についての想いや日々の生活の中にある理念について職員と共有し実践につなげている。	開設時に代表が作った理念があり、新人研修や、全体研修の中で話したり毎朝の申し送りや唱和もしている。玄関や各ユニットにも掲示され、地域に根差したケア、家族との関わりなどそれぞれに対しての実践につなげている。個人としての振り返りも行い、最近では特に地域交流に力を入れている。	管理者研修で学んだ、理念に関しての共有を改めて現場の職員目線からも行われることに期待したい。また職員と話合う機会ももって具体的な実践について話されてみてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しリサイクル活動や、健康相談会 敬老会 盆踊りなどにも参加し交流を深めている。又、日課にしている散歩で町内の方達に挨拶を行い地域との関係性が途絶えないようにしている。施設で行っている秋祭りには地域の方もたくさん参加された。	自治会主導の健康相談会に、4か月に1回程度参加している。昨年からは町内会の役員にもなって、総会にも参加するようになった。毎年の事業所の夏祭りを2年前から秋祭りに変え、クリスマス会や運動会などと共に地域の方を招いている。日頃散歩のときに挨拶を交わしたり、交流を心掛け、最近ではすぐ近隣の方が評判を聞きつけて、入居紹介をいただくこともつながった。	日頃の交流は積極的にされており、今後は町内会を通して認知症啓発活動などの情報発信もなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事を町内会に知らせ行事に参加していただいたりして、地域の方が施設に立ち寄りやすい環境を作ることにより認知症の事を知ってもらえるように努めている。また、今年度は自治会の福祉部を任命されており、オレンジリングの輪を広げる研修なども検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	枝国三区の自治会員や市役所役員、家族の方に参加して頂きサービスの内容・変更や行事の計画・報告・話し合い行っている。又、参加者の方からの意見を聞き事業所の向上に努めている。	2か月に1回開催され、今年から自治会長の参加も増えた。会議では行事計画や報告を行い、食事会形式にして一緒に昼食を食べて日頃の様子を見てもらうこともある。市や自治会などの参加者から情報提供もなされている。議事録は閲覧公開しており、会議中の意見も活発である。	参加者の幅を広げ、より積極的な会議運営を行うために、来られない方に、いつなら良いかの都合を聞いたり、出欠表をいただいたり、柔軟な日にちや時間帯の設定なども検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に来て頂いたり、介護相談員に一月に一回来て頂き事業所のサービスの状況を伝えたり実際のサービスを見ていただいている。また、サービスを行ううえで分らない点があれば電話や市役所窓口に出向き指導を受けるようにしている。	基本的に運営推進会議には毎回参加されており、地域密着型事業者の連絡会の主催で、行政とも懇親会が開かれることがある。日頃質問や相談があるときには窓口まで行っており、担当者とも顔なじみになって話しやすい。地域包括には空き情報も提供し、紹介をいただくこともあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、行政からの身体拘束についての研修や、事業所内での全体研修を行い、身体拘束の具体的な内容を勉強して、新人から長年働いている職員が統一した介護が行えるように努めている。	外部研修には毎年参加し、内部でも伝達研修など行っている。玄関施錠もされておらず、出られる方には無理に引き止めず見守り、付き添いで対応しており、現状はセンサーの利用もない。夜間のみベッド柵の利用をすることもあるが、単発で緊急時のみに留めている。研修によって拘束に当たる行為を理解し、ニュースなどを扱った事例共有、日頃のケアに気を付けるようにしている。	

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6と同様に研修や、事業所で行う全体研修にて勉強し利用者の介護を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政からの研修に参加したり、事業者内で全体研修を行っている。新人職員には、難しい為わかりやすく例題を出したりして検討するなど工夫している。	現状、成年後見制度の活用をされる方が1名おり、身寄りのない方の支援に、代表が後見人になって携わっている。毎年別々の職員が外部研修に参加し、伝達も行い、一般的な制度理解を進めている。必要時には外部の機関とも協力し、説明用のマニュアルや資料も整備されていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には本人、家族に理念を理解していただき、十分な説明を行い、納得したうえで契約を行っている。又、改定などの際には事前に移行を尋ね、理解 納得したうえでやっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何に3回家族会を開催し意見交換や情報交換を行っている。家族会に参加が難しい家族の方については、個別に対応している。利用者の方の意見等は、日常生活の中で介護者が要望や意見などを聞き管理者に報告している。	年に3回運営推進会議の後に家族会を開いており、概ね3家族が参加されている。面会時に意見を聞くことも多く、行事の相談や、希望から寝たきりの方もお連れして花見に行ったり、職員を紹介してほしいとの要望で掲示も行った。外部評価アンケートの回収率も高く協力的な関係が築かれている。昨年事業所でもアンケートをとり、毎月のお便り発信、担当からの手紙もつけて報告もまめに行っている。	アンケートのように、隠れた意見や要望を引き出すような働きかけがなされることにも期待したい。家族会の参加を増やしたり、敬老会など家族が参加しやすい行事の際に合わせて行うことなども検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングで意見交換を行ったり、日常の業務内においても、職員は自由に管理者に相談できる機会を作っている。	外部評価の自己評価も皆で話し合っ作り上げ、毎月の全体ミーティングには全員が参加している。入居者の情報共有なども担当者から報告し、会議での提案から転落予防に低床ベッド導入にもつながった。細かいことでも積極的に提案し、取り組み、日頃の意見も出しやすい。個別面談の機会もあり、管理者と直接話すこともできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人面接において、個々の目標を設定し、達成感を把握するとともに評価や改善点も述べている。賞与等には個々の実績や勤務評価等が反映されている。又、資格習得や研修への参加も支援している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって性別、年齢を理由として不採用とはしていない。面談により本人の働く意思、意欲を基準としている。又、未経験者の採用もおこなっていて、新人研修を行い育成している。	系列の近隣グループホームと職員の定期異動があり、組織全体の風通しを良くするために相互協力している。職員も年代にかかわらず男女バランスよく配置され、無資格でも入社後に会社の支援の下資格取得もされている。シフトも希望休暇などお互いに協力し、子育てなどにも配慮している。職員も能力を生かし、レク、飾りづくり、など企画も話し合い、コミュニケーションをとりながら業務に取り組んでいる。	

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動も一年の研修の中で参加している。ケア会議等を行い事例をもとに職員全員で話し合いの場を設けている。	人権や同和問題に関する研修を定期的に行い、人権研修計画として市に報告もしている。内部での全体研修でも取り上げ、管理者を対象にした外部研修もあり伝達もしている。市役所とも協力して一緒に人権問題に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の全体研修や新入職員への研修実施している。また外部への個人研修への参加も確保しつつ、管理者・ユニットリーダーを含め若い世代へのケアの向上に努めたり、能力に応じての研修やOJTも実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、他の施設との交流を行い情報交換や勉強会をしている。又、飯塚地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	散歩やレクリエーション等を通じて入居者様の不安・要望を聞き納得し安心して頂けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前のアセスメントを行う段階で家族が困っている事や不安におもっていることなどを聞き安心して頂けるようにしている。又、一回のアセスメントで終わるわけではなく家族様が納得していただけるまで説明を行い信頼関係作りにも努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント段階で利用者、家族の希望を聞き、何が必要なかを判断し施設入所がいいのか、他のサービス利用がいいのかの判断を話し合い決めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全ての作業を行うわけではなく、利用者の方が出来ることを職員と一緒にしたり、役割分担をして達成感を共有できるような援助を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月事業所便り[えだくに通信]を家族様へ発行し利用者の状態や健康チェックリスト、職員のメッセージを記載し関係が切れないようにしている。		

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の外出・外泊、面会は自由に行なわれており、訪問がない家族に関しては電話や訪問を促している。また、お寺におまいりへ行くなど、馴染みの方との関係が途切れない様支援に努めている。	基本的な面会時間は決まっているが、要望があれば時間外でも柔軟に対応している。知人や友人の来訪、家族の面会も多く、家族と一緒に参拝に行ったり、なじみの飲食店、商店街への買い物に行く方もいる。一時帰宅や外泊もなされ、手紙や電話の希望もあれば事業所からの支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室やホールでの食事の配置に気を配ったり、行事での外出等は出来るだけ全員参加し孤立しないように心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談の電話や訪問などが出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や日頃の生活の中で利用者の声を聴き現状の把握をしていると共に、センター方式やひもときシートを利用し、本人の想いや希望の把握ができるように努めている。	入居時のアセスメントのほか、担当者を決めて独自の「ひもときシート」を使って本人を中心にした課題解決型のアプローチを図っている。必要な方にはセンター方式の活用もあり、アセスは1年、もしくは随時の見直しをしている。主にケアマネ、計画作成者が担当するが、職員も評価にかかわり現場の意見も取り入れている。支援経過にも写真を載せて、見える形で場面の把握、実際の様子が伝わるように考えられている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族に尋ねたり、センター方式やひもときシートを活用しケア会議等で生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議などを行い利用者の現状の把握を行っている。また、職員のきずきや利用者の訴えを記録に書き情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等と話し合い介護計画とモニタリングの作成に取り組んでいる。また、独居の方の場合は施設入居前に関わりを持っての方に話を聞いて反映できるようにしている。	担当制で職員がプランの素案作成、モニタリング、カンファレンスの取りまとめを行い、ケアマネが監修している。プランの短期を半年、全体を一年で見直し、担当者会議を一年で開催している。短期目標を支援経過の上部に掲載することでプラン共有、実施にもつなげている。管理栄養士からの意見をプランに反映するなど専門職の意見も取り入れている。	プラン目標ごとにナンバリングして、1日の流れの中で何ができて何ができなかったかを詳細に記録づけてはどうだろうか。また必要時には医師や看護師から聞いた意見も担当者会議録に反映させられることにも期待したい。

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、健康チェック表などを記録し職員間で共有しながら介護計画の見直しに役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	合同行事や地域行事 ボランティアとの交流、地域で開催される100円均一での買い物等、また家族参加の行事など柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・自治会(リサイクルや健康相談会など)の活動・枝国三区自治会・ボランティア・消防署等の支援を活用し安全な暮らしが出来るように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の往診で日頃の状態報告や他病院結果の報告を行っている。緊急時の対応もかかりつけ医との連携をとれるようにしている。また、職員の小さな気づきも看護師を通じて電話報告できる関係を築いている。	入居時に、本人家族と相談の上で外部のかかりつけ医も継続できるが、事業所の提携医を主治医にされる方が多い。他科通院は基本は家族に介助してもらうが同行や通院介助も行っている。基本は看護師が担当し、何かあればお互いに随時情報共有をしている。管理者が看護師でもあり、中心になって健康管理をこまめに行い、業務日誌で所内での共有もなされている。訪問看護も毎週来られており、毎日看護師がいる状態で職員や家族も安心されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており、介護職員との連携を図っている。また、訪問看護師にも介護職員と連携を図っており状態の把握に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族、職員、かかりつけ医と話し合い早期退院が出来るように努めている。退院後もADLの回復に向けた支援にも取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、かかりつけ医と十分に話し合いながら本人・家族の意向を尊重しかかりつけ医と共に職員が支援している。看取り介護も行っている為チームケアを重要視して取り組んでいる。	開設から40人以上を看取った経験もあり、入居時に看取り指針も説明し、重度化の際には改めて説明、同意を得ている。管理者が中心になってターミナルケア、喀痰吸引の研修も行い、かかりつけ医も24時間対応可能である。関係機関とも協力して親身になって対応し、希望すれば最期まで支援する方針で、家族にも協力してもらい、必要時には泊まることもできる。	

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや全体研修などで常日頃より看護師や管理者から指導を受けている。また、急変時や自己発生時の対応はマニュアルだけでなく管理者や看護師の指導や研修などを受け職員の意識付けを行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政・自治会・消防・警察などと連携を図っている。定期的に火災訓練、地震訓練も行っている。また、避難経路の図上訓練や避難場所の確認も定期的に行っている。	年2回の訓練があり、うち1回は消防署も立ち会っている。地域の避難場所としても提供し、自治会とも連携している。消防署が参加した際には講話ももらった。地域にも毎年声掛けもしており、今回は自治会長にも参加してもらった。平屋建てで、各所に勝手口もあり、避難もしやすい。訓練は新人を担当にすることで覚えてもらい、避難路の確認も毎訓練時に行っている。備蓄物も準備されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にして、その方の自尊心を傷つけないように心がけている。また、全体研修や、外部研修に参加して職員全体で取り組んでいけるようにしている。	個人情報、写真のお便りへの利用など、入居時に口頭で説明、同意を得ている。新人の入職時や全体研修では接遇に関する研修も行い、個人の尊厳を尊重して、当たり前のことを当たり前のこととして捉えて、ケアに意識づけている。プライバシーにも配慮し、入浴や排せつなど同性介助も了承を得て行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物、外食、外出など利用者が自己決定が出来るように声かけを行い対応している。思いや自己決定が難しい方に関しては、家族の方に聞くなどして対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な利用者が生活していて、その方にあった生活が出来るように心がけている。健康面や生活上苦慮している部分もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔が保てるように配慮し着替えの際は本人と一緒に着替えの服を選んでいく。ご自分だけで選ばれると冬に薄着をしたり、夏に厚着をしたりと衣服の調整が出来ない方もおられる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、食事の用意や準備を手伝っていただいたりして食事の用意や準備して頂き楽しんで食べて頂ける様に努めている。また、一人で食べるのではなく皆で会話しながら食べれるように工夫している。	管理栄養士を配置し、メニュー管理、調理、職員への指導も行っている。調査当日も品数が多く、手の込んだメニューで栄養にも配慮されていた。できる方は手伝いをし、下ごしらえ、配下膳をすることも。旬のものをつかって、土筆をとったり、山菜を使ったり、おやつレク、外食などもされている。職員は別のもを個別で食事している。	

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体重・身長・運動量・既往歴・BMIなどを参考にして看護師、管理栄養士、かかりつけ医と共に栄養バランスを考え提供している。また、四季にあった旬な食材を使用するように心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、一人で出来ない方は援助・介助を行い対応している。また、歯科に往診へ来ていただき口腔内を診ていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し排泄パターンを把握し、排泄の声かけ、トイレ介助を行っている。(出来るだけトイレでの排泄が行えるようにしている。	ユニットごとに24時間の排泄チェック表があり、便量や状態も詳細に記録している。水分摂取量もこまめに管理し、食事管理を中心としたケアを行い、排泄状態も概ね良好に保たれている。トイレ誘導をこまめにする事でパット内汚染が少なくなったケースもあり、皆でカンファレンス時に話し合い積極的に提案、実践し、改善につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握しかかりつけ医との連携のもと内服や、外用薬を使用し排便を促している。また食べ物の工夫や、日々の運動を行い排便を促すことも行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日。男性・女性がいる為本人の希望する順番を毎回行うことが出来ないが順番を入れ替えたり、男性から先 女性から先にしたりと交互に対応している。	広めのユニットバスで個浴、基本は午前中だが、希望すれば午後の対応もできる。ユニットごとに日を変えて、お湯もため流すことで適宜清潔に保っている。異常がみられる際は看護師は皮膚観察し、健康管理にも役立てている。季節の行事浴にしたり、入浴剤を使うこともあり、入浴を楽しんでもらうように配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が休息を取りたいときなどVS測定を行い、自室に休んでいただいている。安心して寝ていただく工夫として自宅で使い慣れた布団や枕があれば自宅から持ってきてもらっている。また、温度調節も行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋は、いつでも見られるようにファイルに閉じてある。服薬の変更があれば申し送りして報告し副作用などに気をつける。また、内服に関する研修も行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割が持て、日々の生活を楽しんで頂ける様に工夫しているが何も動きたくないなど無気力な方もいる。そのような方には、職員が声かけし一緒に行ったり、会話を楽しんでもらえるように努めている。		

H27自己・外部評価表(GHえだくに)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団生活で様々な方がいる中で、全て希望場所へ行けることは少ないが、二度三度外出し本人の希望に沿った場所へ行けるよう工夫している。外食に関しては、地域の方や外食店と協力してトラブルの無いようにしている。	毎月外出行事を計画しているが、状態や意欲に応じてそれぞれ個別にも外出している。日常的にも天気の良い日は散歩に出たり、少人数でのドライブに行ったり、積極的に外出し、車いすや寝たきりの方にも働きかけて外気に触れる機会をもっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人差はあるがお金を所持し、自分で使える方もいる。また、所持できない方に関しては買い物時に職員と一緒にレジに並び支払いをするように努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族・友人等との関わりを切らないように手紙や電話などは本人が望めばいつでも行える。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保ち、季節感のある飾り付けやカレンダーを毎月作るなどの工夫をしている。また、温度管理も行っている。また、施設内に畑を作り季節の食材を利用者と収穫できる工夫をしている。	広めのホールは吹き抜けで天井も高く開放的で、風通しもよい。手すりもついており、両ユニットを通って、室内での歩行訓練をすることも可能である。季節ごとに職員と入居者で作った飾り付けもなされ、窓外に望める緑から季節感も感じられる。ダイニングテーブルやソファなども各所にあり、入居者は思い思いの場所で寛ぐことができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには広いテーブル、ソファ、椅子が置いてあり自由に過ごせるように工夫している。利用者同士のトラブルに関しては席の場所を工夫したり、職員が間に入るなどおこない対応。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は、自宅で使用していた馴染みのあるものを持ってきていただいたり、家族の写真や施設内での写真・プレゼントを飾るなどしている。転倒の危険性がある方に関しては、配置を本人・家族と話し合い決めている時もある。	必要な方には低床ベッドを導入して、万が一の転落があっても怪我のないように配慮されている。動線にも配慮しながら、過ごしやすくそれぞれなじみのものを持ち込んで部屋作りがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にわかりやすいようホールを中心にトイレや洗面所・浴室を配置している。廊下には手すりを設置し移動する際に使用してもらえようとしている。		